

「私は驚くべきものに！」(2026. 7. 19)

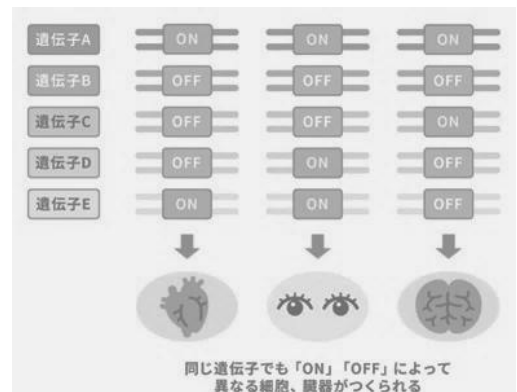
あなたは、わたしの内臓を造り、母の胎内にわたしを組み立ててくださった。わたしはあなたに感謝をささげる。わたしは恐ろしい力によって驚くべきものに造り上げられている。御業がどんなに驚くべきものか、わたしの魂はよく知っている。(詩編 139:13-14)

先日赤ちゃんが誕生するまでの動画を見た。リアルに生命の誕生の神秘を見ることができた。命の神秘への思いはさらに深まり、驚くべきものとして迫ってきた。

1 個の受精卵が 2 個に細胞分裂し、その 2 個が 4 個に、4 個が 8 個に、と倍々に増えていく。60kg の人間の細胞数は今日 37 兆あるとされ、3kg の赤ちゃんの場合、約 2 兆という。2 兆個になるにはこうした細胞分裂を 41 回繰り返すことになる。1 個の細胞が分裂を繰り返すこのシステムとその力。凄いことだ。

数学の分野で私を魅了するものにフラクタル図形がある。ケヤキやシダなど自然界の至る所に見られる。簡単な図形をその比率を一定にして繰り返すとできる。繰り返しのプログラムが埋め込まれているからだ。私にはわからないが、細胞分裂にも繰り返しのプログラムが機能していることは間違いない。

さらには、その細胞が体の色々な部分に分化していく。心臓になり肝臓になり肺になり、また頭になり手になり足になる。さらに目になり耳になり口になる。同じ細胞だったのに、あたかも設計図に従うかのよう
に分化して、赤ちゃんになる。配置された場所によってそれぞれの細胞がその遺伝子の ON・OFF により、いろんな臓器になり、体全体が組み立てられる。体全体の設計図があることも驚きだが、その設計図に合わせて組み立てていく見えない力に驚いてしまう。



無神論者は細胞一個からこのような命の誕生まで、偶然と長い時間における進化の結果、自己組織化の結果と強弁する。何か恐ろしいまでの感性の鈍さを感じる。その点、上掲の詩編を謳ったダビデの感性は鋭い。内臓も体全体も驚くべきことだが、何にもましてロボットではない、自由意志を持つ存在として造り上げられているのだ。ここにこそ最大の神秘がある。私もダビデに倣い神の前に畏れ、感謝を捧げたい。

「主よ、あなたは私を恐ろしい力によって驚くべきものに造り上げて下さいました！」